

みやけの風

第 215 号

平成17年(2005年)3月19日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

昨夜の船で三宅島災害・東京ボランティア支援センターの役員8名が、三宅島へ渡りました。臨時役員会を三宅島で行なうためです。代表、副代表、それぞれの団体を代表して、三宅島の様子をつぶさにして、これまで1ヵ月半の「三宅島帰島支援ボランティア活動」を振り返り、今後の事業の継続と展開への取り組みを確認します。

みんなの声

「ありがたかった」とお礼を言って

3月10日のこと、錆が浜港には船を待つ懐かしい人の顔があった。久しぶりの話がいろいろ。そんな中で、三宅島支援センターのボランティアさんたちの話が出た。

「窓に灰がべったり着いてどうしたらいいのかと途方にくれていると、ボランティアさんに頼んだらと教えてくれた。弁当も持って来るしなんの心配もいらぬよ、と聞かされたのでお願いした。お願いしてよかった。窓の汚れから、家の周りまできれいにしてくれた。昨日帰る予定だったが、ボランティアさんたちが片付けてくれたので、今日帰るんだけど、お礼の手紙を書けばいいんだけど、書けないからよろしく伝えて」とのことでした。

それなら私も同じこと。我が家もイタチとネズミに部屋中荒らされて、庭は茅が茂ってどう片付けたらよいか、壊れた家の取り壊し前の片付けをどうしたらよいか、途方にくれていた。ボランティアさんのおかげで、家の中も庭も見違えるほど片付き、道行く人たちを驚かせるほどになった。子どもの頃からの付き合いに深い方に、ジャガイモも植えていただいた。

「ボランティアさんたちのおかげで片付いたよー」「ありがたいよー」「おかげさまでよー」など、喜びの声の日々膨らんでいます。

まだまだ話しきれないほど、書ききれないほどの手助けをいただき、感謝しています。

(阿古 鈴木 則子)

皆様こんにちは、お元気ですか？

ふれあいコールです。

2月1日三宅島避難解除され、早いもので後数日で2ヶ月になろうとしています。すでに

帰島された方、帰島準備されている方、また逆にいろいろな事情で帰島したくても不可能な方と・・・。

帰れない方の中には、「自分だけ取り残された感じで寂しい」とおっしゃる方もいます。それぞれ悲喜こもごもです。3月から4月にかけて帰島のピークと聞きました。くれぐれもお身体大切にお過ごしください。

そんな中でも、春の訪れと共に、今年の桜の開花予想が発表され、三宅島も5年ぶりに4月1日と発表されました。残念なことに、今まで予想や開花日の判断に使ってきた「標本木」も、火山ガスのため、予備の1本とともに枯れてしまったとのこと。気象庁では、来年までに新たな標本木を決めたいとのことでした。

一時帰島で行くたびに、我が家の前にあった、神様も宿るといわれた通称「椎山」の森も、すっかり枯木化してスカスカの見るも哀れです。今頃の季節には、「苗場」のフキもあたり一面芽を出し、春の訪れを肌で感じる事ができたのに、カヤに占領されてしまいました。

三宅島が一日も早くガスの影響がなくなり、自然が回復されることを願わずに入られませぬ。ある人が、「雄山に鍋のふたをすれば簡単」と落語のようなことを言い、みんなでお腹を抱えて大笑い。

「ふれあいコール」も4年を過ぎた今、皆様に支えられてこれまで続けてこられたのも、良い経験となりました。

いずれは私も一島民として、また皆様と一緒に歩いていきたいと思っています。それまで皆様の帰島が済む7月までは、この活動を続けていきます。(越谷市 阿古 若木 恵美子)

三宅島帰島支援ボランティア活動報告

活動日 : 2005年 3月 7日

報告者 : 鈴木 利佳 メンバー : 佐藤 釜鳴 岩下 吉田 小林 村上 青島

< 活動内容 > 様宅での作業
 畳の敷きこみ かや刈り(草刈り) 単カンの撤去 その他

< 感想・等 >

鈴木 : さんは今朝の船で到着した為、前日に詳しいニーズを聞く事が出来ませんでした。朝にみんなでご挨拶に伺うと、72歳とは思えない活刺さで私たちを迎え入れ、植物に対する豊富な知識を惜しみなく与えて頂きました。苦勞して持ち込まれたご自分の著書まで頂き(気持ち良くサインまで!)メンバー一同、恐縮しきりでした。作業としては家具の搬出と伺っていましたが、畳の敷きこみ、お庭のお手入れなど多岐に渡る作業でした。今日一日の作業では終わらないので事務所に判断を仰ぎ、明日も引き続き作業する事になりました。

追記 : 休憩の際にお茶をふるまって頂いたのですが、出されるもの全てが賞味期限切れ。('99年がほとんどで、何と '88年で賞味期限切れの梅こぶ茶まで!)

リーダー鈴木が笑顔で丁重にお断りしましたが、私の見ていない隙に何と佐藤・釜鳴両氏を実験台に豪快にふるまっていたら、これを皮切りに蜂蜜、手作りの梅ジュース、百合のテキーラ酒(?), 最後にはいつ落ちたか不明の夏みかんまで歯止めの利かない状態に・・・ご馳走様でした・・・(^_^;)

佐藤 : とても博識な方で感動した。この知識を埋もれさせる事ないようにしたい。

釜鳴 : 三宅島に来て、初めての活動だったので、とても気合が入っていた。自分にできることなら、何でもやるつもりだったが、先生はとてもマイペースに指示して下さるので、いつのまにかそのペースになってしまっていた。(笑)でも、逆にゆっくりやることでさんとたくさんお話ができたので、その方がよかったのだと思う。都会のせからしい生活と比べて、島民の方の生活は何にもプレッシャーがないように感じた。自分も20年後にはどこかの島でゆっくりと暮らしているのかもしれないと思った。最初、お宅を伺った時に「今日は8人います」と伝えたら、目にうっすらと涙を流していたのが、全てを物語っているような気がしました。最後に、今日も一日中作業をした72歳の さんのパワーに脱帽!!!!

岩下 : 初めに庭を見た時、たいした事がないと思ったが、いざ草刈りを始めると4年という歳月を痛感した。

吉田 : 九州から渡ってきたさつまゴキブリを始めてみて、さんから教えてもらってびっくりした。

小林 : 今年の4月から中学校に赴任するので さんの話を聞いてとても為になった。

村上 : 今日畳の敷きこみをやった。初めは慣れなかったが、最後は畳職人になれそうなくらいうまくなった。

青島 : さんの博識さに感動、勉強になった。